

2018年4月10日

平成 30 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の受賞について

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、「平成 30 年度科学技術分野における文部科学大臣表彰」において、マツダの研究者 5 名が新世代クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D 1.5」(スカイアクティブ・ディーゼル 1.5)の開発において「科学技術賞(開発部門)」を、技術者 1 名が「ブローチ盤切粉ならし作業レス化改善」において「創意工夫功労者賞」を受賞したと発表しました。

「科学技術賞(開発部門)」は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に与えられるものであり、マツダの受賞は昨年の新世代 4WD システム「i-ACTIV AWD」(アイ・アクティブ・エイダブリュディー)、一昨年の「i-ELOOP」(アイ・イーループ)、その前年の「SKYACTIV-D」(スカイアクティブ ディーゼル)に続き、4 年連続 6 回目です。また「創意工夫功労者賞」は、優れた創意工夫により職域における技術の改善向上に貢献した者に与えられるものです。マツダからは主に生産現場における改善活動の成果などにより、平成 27 年以降 4 年連続の受賞となります。

「科学技術賞(開発部門)」を受賞した「SKYACTIV-D 1.5」は、低圧縮比ディーゼルエンジンとして高効率過給の組み合わせと小型ディーゼルエンジンとしての克服技術である冷却損失改善技術を多く取り入れて熱効率をさらに改善し、燃費・エミッション・走り・静粛性を高次元でバランスさせたエンジンです。

今回の受賞では、小排気量 & 軽量コンパクト化という課題を革新的な技術により克服し、小型車搭載により幅広いユーザーにその価値を提供したことで、国内のクリーンディーゼル車シェア率を 2020 年までに 5%まで普及させるという政府目標(次世代自動車戦略 2010)を 5 年も早く達成することに寄与したことなどが評価されました。

また「創意工夫功労者賞」を受賞した「ブローチ盤切粉ならし作業レス化改善」では、新世代高効率オートマチックトランスミッション「SKYACTIV-DRIVE」(スカイアクティブ・ドライブ)の生産増のため増設された内歯歯車加工機(ブローチ盤加工)から排出される切削屑(切粉)の増加により、設備メンテナンスのための作業工数および設備停止の増大が課題となっていました。からくり改善により、メンテナンスの省力化と設備停止ゼロを実現することが出来たことなどが評価されました。

【受賞概要】

科学技術賞(開発部門)

業績名: 「新しい価値を提供する新小型ディーゼルエンジンの開発」

受賞者:	森永 真一(もりなが しんいち)	マツダ株式会社	第1エンジン性能開発グループ
	志茂 大輔(しも だいすけ)	マツダ株式会社	第1エンジン性能開発グループ
	高松 宏志(たかまつ ひろし)	マツダ株式会社	エンジン性能開発部
	平林 千典(ひらばやし かずのり)	マツダ株式会社	第1エンジン設計グループ
	大西 毅(おおにし つよし)	マツダ株式会社	第1エンジン性能開発グループ

創意工夫功労者賞

業績名: 「ブローチ盤切粉ならし作業レス化改善」

受賞者： 中島 健太郎(なかしま けんたろう) マツダ株式会社 防府工場

マツダは、今回の受賞を励みに、さらなる創意工夫を積み重ね、将来においても「地球」、「社会」、「人」とクルマが共存する世界の実現を目指し、「走る歓び」にあふれたカーライフを通じて、お客さまの人生をより豊かにし、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

以 上

【ご参考】

■マツダの新世代クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D」のご紹介

<http://www.mazda.co.jp/beadriver/dynamics/skyactiv/skyactivd/>

■マツダの新世代高効率オートマチックトランスミッション「SKYACTIV-DRIVE」のご紹介

<http://www.mazda.com/ja/innovation/technology/skyactiv/skyactiv-drive/>